

## 編集後記

前号は、締切日前に原著6編、臨床1編および古典紹介1編の計7編の原稿が投稿され、雑誌が厚くなり過ぎるのではないかと心配した程でしたが、本号は一転して、締切日を過ぎても臨床と図説各1編しか投稿がなく、雑誌の発行が危ぶまれる状態になりました。前々号でも似たような状態が起りましたが、締切日を1ヶ月延長しましたところその直後に多数の原稿が投稿されて、最終的には14編という十分な論文数に達しました。そこで今回も締切日を1ヶ月延長することにしましたが、今回は前々号のようにはうまく行かず、合計10編のあまり厚くない雑誌となりました。それでも、第21巻3号が無事発行出来たことで、編集子としましては一応満足しています。再募集後僅か1ヶ月間で論文を執筆して下さいました先生方には心から感謝申し上げる次第です。

本号の総説には、本学総合歯科医学研究所生体材料部門の伊藤充雄教授に執筆をお願いしたところ、「アバタイト含有キトサンフィルムの諸性質について」と題する10頁を越える論文を頂きました。前号の総説は本年昇任された小児歯科学講座の宮沢裕夫教授に執筆して頂きましたが、次号は本年広島大学から赴任して来られた歯科放射線学講座の和田卓郎教授に執筆をお願いしてあります。新任あるいは昇任された教授がおられる年は、これからも紹介を兼ねてこれらの先生方に総説の執筆をお願いしていく予定です。

新聞やラジオ・テレビでは、今年は「大変な年」であったと表現しています。死者6千人以上を出した関西大震災は関東大震災と共に日本の歴史に残る大地震ですし、松本サリン事件に端を発した一連のオウム真理教事件は、人々の常識を越えた異常な大事件と言えます。また、松本で34度を超す異常な夏の猛暑も地球の温暖化の前兆とも言えそうな現象ですし、バブル崩壊の産物である金融界の不良債権も巨額な数字を示し、大事件に発展する気配を示しています。松本歯学を含め、世の中すべてが穏やかに順調に行って欲しいものです。

(野村浩道)

松 本 歯 学                      第21巻 第3号                      (非売品)

1995年12月25日 印刷                      1995年12月31日 発行

編集兼発行者                      小 林 茂 夫

発 行 所                              松本歯科大学学会

399-07 塩尻市広丘郷原1780                      電話 0263-52-3100

印 刷 所                              電算印刷株式会社

390 松本市筑摩1-11-30                      電話 0263-25-4329